

モザンビーク共和国

【国名】

- ポルトガル人の来航以前、北部沿岸の島を支配し交易を行っていたアラブのスルタンの名前Musa al biqueに由来。

【国旗】

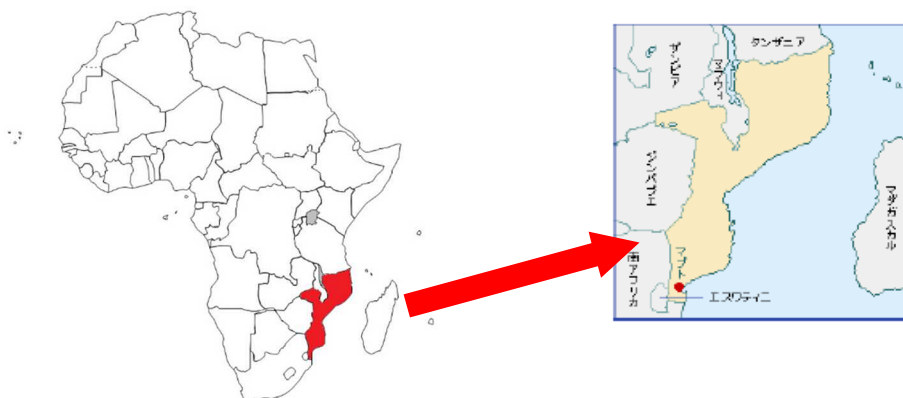
- 緑色は豊かな大地を、黒色はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を、白線は平和と正義を、赤色は主権維持を象徴。
- 本と鋏と銃はそれぞれ勉学、生産、闘争を意味し、星は国民の団結を表す。



モザンビーク国旗

【国土】

- アフリカ大陸南東部インド洋に面する沿岸国。面積は日本の約2倍（約80万km²）。首都はマプト。人口は約3,036万人。



【アフリカに降り立った最初の日本人】

- 1586年、ヨーロッパに向かった天正遣欧使節団は帰路、乗り継ぎ船を待つためにモザンビーク島に寄港。帰路では季節風の風向きが変わるのを待つため、モザンビーク島で6か月間を過ごした。
- 現在判明している限りでは、彼らがアフリカの地に降り立った最初の日本人。

【訪日した最初のアフリカ人】

- 宣教師ヴァリニャーノが織田信長に謁見した際、信長の希望により献上したとされる黒人の従者は現在のモザンビーク出身であったと言われる。信長は「弥助」と名付け、武士の身分を与えて家臣としたと言われる。安部龍太郎著「信長燃ゆ」には、信長が「弥助」からザンベジ川、リンポポ川にまたがり、ソファアラ港（現在のベイラ港）を抱えていたアフリカの王国について聞くシーンがある。

【フランシスコ・ザビエル】

- フランシスコ・ザビエルは、日本来訪前の1541年から1542年、モザンビーク島に6か月滞在した。ザビエルが毎日祈りを捧げていた場所には、ザビエル礼拝堂が建てられている。



【外交官交換】

- 太平洋戦争開戦翌年の1942年7月、交戦国となった日米カナダの外交官等の交換が中立国であるポルトガル領のモザンビークのロウレンソ・マルケス(現マプト)で行われた。

【シーラカンス】

- モザンビーク近海にはシーラカンスが生息。文化無償で協力したマプト市の自然史博物館には、1991年頃にモザンビークで操業していた日本の漁船が捕獲したシーラカンスの剥製が展示されている。



【観光①:モザンビーク島】

- 1991年にユネスコ世界遺産に登録。かつてモノタパ王国(アフリカ南部ザンベジ川流域に栄えた国)の金とアラブの品々を交換するインド洋貿易の中継地として繁栄したが、ヴァスコ・ダ・ガマによってポルトガル領化された。
- 古い家々が立ち並ぶ北部には、スワヒリ文化とポルトガル文化が混じり合った家並みが連なる。住民も多種多様で、アフリカ系、アラブ系、インド系など様々な顔立ちが混ざり、わずか全周3kmほどの島内には教会、モスク、ヒンドゥー寺院がある。



【観光②:ポンタ・ド・オウロとマプト国立公園】

- マプト州南部の南アフリカとの国境付近にあるリゾートビーチ、ポンタ・ド・オウロは、透明な海とゴミ一つ落ちていない砂浜を有し、ダイビングやホエールウォッチングなどの多様なレジャーを目当てに、南アフリカをはじめとする外国から多くの観光客が訪れている。
- ポンタ・ド・オウロの約30km北に広がるマプト国立公園ではサファリが楽しめ、象やキリンに会うことができる。



【観光③:バザルト諸島国立公園】

- マプトから北へ700kmに位置するイニャンバナネ州ビランクーロ市沿岸から、モーターボートに乗り約40分で行くことができるバザルト諸島国立公園。
- 砂丘の白とサンゴ礁広がる海の青が非常に美しい景観を作りだしており、世界各国から旅行客が訪れる人気スポット。シュノーケリングを楽しめるほか、モーターボートからクジラやイルカ、ジュゴンに出会えることもある。



【音楽：ティンビラ】

- 南部シヨピ族の伝統楽器の木琴。2005年にはユネスコの通称「無形文化遺産」に登録された。MWENDJE という良質の木材でできており、鍵盤の下にはマサラという果物の殻でできた共鳴器が固定されている。催しものにはよく登場し、踊り手がティンビラ奏者の前で舞う。



【食生活】

- 主食は米のほか、白とうもろこしの粉を練った「シマ」が一般的。煮込み料理が多く、代表的なものは、ココナッツミルクとピーナッツのカレー（カリル・デ・アmendoin）やキャッサバ（タロ芋）の葉やカボチャの葉で出来たカレー（マタパ、ンボア）等。魚介類も豊富かつ新鮮で、エビやマグロ、ハマグリは日本へ輸出されている。
- 2015年には日本の無償資金協力でマプト魚市場が建設され、連日多くの顧客で賑わっている。



【カプラナ(アフリカ布)】

●モザンビークでは、アフリカ布はカプラナと呼ばれている。カプラナの使用方法は様々で、シャツ、



ワンピース、スカートから、テーブルクロス、エプロン、エコバック等として使用されている。

モザンビーク女性は、カプラナを腰に巻いたり、赤ちゃんの抱っこひもとして使用したりしている。結婚式やフェスタ(お祭り)等では、親戚、友人同士でお揃いのカプラナ服を作ることを習慣としている。

【スポーツ】

- 有名なスポーツ選手としては、サッカー元ポルトガル代表のエウゼビオが挙げられる。同氏は独立前のポルトガル領東アフリカの出身で、1960年にリスボンに渡ると、所属するベンフィカの中心選手として欧州連覇に貢献。ブラジルのペレとともに同世代最高の選手の一人として称えられた。
- シマオン・マテ選手は、2019年から2021年までJリーグベガルタ仙台に所属。Jリーグでプレーする最初のモザンビーク人となった。同選手は、2019年にJリーグ優秀選手に選出、2020年は正式に同チームのキャプテンを務めるなど活躍した。



- 女子陸上 800mのマリア・ルルデス・ムトラ選手は、1996年アトランタ・オリンピックで銅メダル、1998年には世界記録を樹立、2000年シドニー・オリンピックではモザンビーク初の金メダルを獲得(1分 56秒 15)し、国民的スターとなった。




- 2016年リオ・オリンピック・パラリンピックでは、女子陸上エドゥミルザ・ゴヴェルノ選手が銅メダル(視覚障がい者:400m)を獲得した。
- 2021年柔道アフリカ選手権男子66kg級でケヴィン・ロフォルテ選手が銅メダルを獲得した。



- 東京オリンピック2020では、セーリング3名、カヌー1名、ボクシング2名、競泳3名、陸上1名、柔道4名、パラ陸上3名の選手が出場した。
- 2022年ボクシング女子世界選手権にて、ライトミドル級でアルシンダ・パングアナ選手が銀メダル、ミドル級でラディ・グラマネ選手が銅メダルを獲得した。
- 空手のモザンビーク代表チームは、2022年AUSC(アフリカ連合スポーツ競技会)5地区大会において、9つのメダル(金1、銀3、同5)を獲得した。

【けん玉世界一】

- 2004年7月から2年間にわたりモザンビークに派遣された青年海外協力隊員（理数科教師）の窪田保氏が課外授業としてけん玉をモザンビーク人学生に指導。
- 
- 2006年7月、大阪にて開催された「第5回ワールド・オープンけん玉大会」にて、教え子のフラビオ・アルマンド・マカリングエ君（当時21歳）が8時間連続（世界記録タイ）でけん玉を続け、優勝した。
 - マカリングエ氏は現在小学校教員となり、けん玉普及を展開中。

（了）